

2023年3月春 超覚寺報 第56号 【ハーフ屈たより】



- ◎ 寺子屋サロン(浄土真宗基礎講座)：15時30分～17時
これまで毎月28日に開催していましたが、参加しやすいうように3月から最終土曜日の15時30分から開催することになりました。
3月25日は釈尊誕生日(花まつり)の準備をする予定です。
- ◎ 死別の分かちあいの集い：13時～15時
 - 夫を亡くした方：毎月第1土曜日(4/1・5/6・6/3・7/1・8/5)
 - 自死遺族の方：毎月最終土曜日(3/25・4/29・5/27・6/24)
当事者の方々の分かちあいの集いです。住職も参加、傾聴します。

- ◎ 体操教室・整体教室・ヨガ教室・よろず相談会
毎月開催していますが、日にちや曜日を固定していないので、お寺の掲示板をご覧いただくな、お寺までお問い合わせください。

◇ 報告・連絡・“僧”談

超覚寺の法要・法座では、阿弥陀如来にお供えしたお餅をお下がりとしてお渡します。昔から超覚寺では衛生面を考慮して真空パックにしていますが、図らずもコロナ対策になっていました。今回の春季彼岸会のお供えはヨモギ餅にしています。

中に広告を折り込んでいますが、6月4日に仏教講演会を開催します。料理研究家の土井善晴氏と政治学者の中島岳志氏をアステールプラザにお招きし、仏教外の専門家の宗教観をお聞きします。参加希望の方は超覚寺までご連絡ください。チケットは5月からお渡しえています。

超覚寺の右側の門壁にお寺の由来版を設置しようと企画しています。そこに昔の超覚寺の写真を載せたいのですが、どなたか古い超覚寺の写真をお持ちの方はいらっしゃいますか？原爆で焼失して超覚寺には何も残っていません。ぜひ複写させて頂ければと思います。

・新井新監督効果でカーブ戦チケットの競争率も爆上がりしていますが、今年は12試合190席が当たりました。春季彼岸会にてチケットの申し込みを受け付けます。どうぞお参りください。

発行人：超覚寺住職 和田隆彦(糸隆恩) (*--人) 合掌

浄土真宗(真宗大谷派・東本願寺)



超覚寺

院

RIN-O-ZAN OKU-ZEI-IN CHO-KAKU-JI
(since 1ム暦 2162, 西暦 1619, 元和 5)

〒730-0013 広島県広島市中区ハリヤ 5-2
Tel : 082-221-1234 ; 090-9999-3113
Mail : wada@namuamidabutsu.com
HP : <http://www.namuamidabutsu.com>

<http://mytera.jp/tera/48chokakuji>

超覚寺 春の法要のお知らせ

慈光のもと、平素は様々にお世話になっておりますこと、ありがとうございます。
さて、下記の通り法要・法座を勤修いたしますが、マスク等のコロナウイルス対策は各自で判断していただきます。ご参詣くださいながら、ご案内申し上げます。

◎ 2023年 春季彼岸会法要

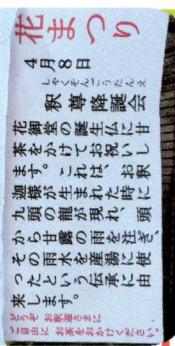
3月21日(火・祝)13時～ 勤行：住職
13時30分～(休憩)～15時

高座(節談)説教：祖父江佳乃師(名古屋市有隣寺住職)

◎ 花まつり(釈尊降誕会)

4月8日はお釈迦さまの誕生日です。超覚寺では4月1日から8日まで掲示板前に花御堂を設置し、誕生仏(生まれたばかりのお釈迦さま)をお供えいたします。その誕生仏に器の甘茶を注ぎ掛けてお参りください。

また記念品(水引細工・散華)を置いていますので、お好きな物をお取りください。



△ 寺院護持費(墓地管理費)について
遠方の方は、どうぞ下記口座をご利用ください。

[ゆうちょ銀行] 15190-55770601

他金融機関から、ゆうちょ銀行へ振り込まれる際は、次の内容をご指定ください。

[名義] チョウカクジ

[店名] 五一ハ(読みゴイチハチ)

[店番] 518 (普通預金) 5577060

→ でも、それほど偉業を成し遂げた人は、逆に偉ぶつたりしません。ある行者は回峰行に入る前に御念珠を2珠増やし、満行した後その2珠を取り外しました。正式な数珠の玉は108珠、いわゆる煩惱の数を意味しています。なぜそんなことをしたのか？ その行者は、こうおっしゃったのです。「私はもともと人よりも煩惱の多い人間でした。回峰行をすることで、ようやく人並みになれたのです。」

世の中が進歩していくと、どんどん効率の良さが求められます。だから、自分にどんな才能があるのか？ どんなことが向いているのか？ この道は自分に合っているのか？ そう考えて、他に自分にぴったりの仕事があるのかとも転職を繰り返し…、残念ながら誰にでも人並み外れた才能があるわけではありません。

お米作りのベテラン農家も回峰行を達成した行者も、「自分には才能がある！」と確認してから人生を選んだわけではなかったでしょう。ましてや100%の準備が整つてからその道を歩み始めるなんてこともなく、迷い悩みつつ進んでいき、気がついたら周囲から名人・達人と呼ばれるようになっていたのではないかというふうか。

新しい環境になかなか慣れることができなく焦ることはありませんし、新しいことを始めて間もなく大失敗してもいいんです。私も僧侶に向いていると確信して超覚寺に入ったわけではありません。昔流行った織田無道のような富裕僧になりたいというゲスな思惑で脱サラし(その期待はすぐ打ち砕かれたが…), そもそもお寺の生れ育ちでなく、30歳で得度し(広島の住職の中では最も遅い)、今も変わらず人見知りです。それにこの性格ですから法衣も袈裟も特注、葬儀場や火葬場で二度見されることも日常です。もし熟考していたら、この道をスタートすることすらできなかつたと思います。いつの間にか25年が過ぎ、これが天職だった、お導きだつたと感じざるを得ません。自分に合った道を歩むのではなく、自分の歩んだ道が自分だけの道になっていくのではないか。」

◇石の上にも三年

「石の上にも三年」ということわざは、冷たい石でも3年も座つていれば温まるということから転じ、「辛くとも我慢して続けて続ければ成し遂げられる」という意味の言葉です。しかし最近は、「3年も我慢するのにはムダ」「自分には合わないと思えば見切りをつけて止めてしまつてもいいんだ」という声も多く聞かれるようになりました。もちろん、あまりに向いていないであらう道なら、見切りをつける勇気も大切ですが、合う合わないを見極めるには、ある程度の期間は必要です。三日坊主とは呼ばれたくないのです。

新潟で50年も米作りを続けている農家の方の話ですが、「今年のお米の出来はどうですか?」と尋ねられると、「いやわかりません」と答えたそうです。取材者は「半世紀も米を作り続けていて、まだ出来の良し悪しも予想できないか?」と思ったそうですが、その農家の方は、こう言葉を続けました。「僕はまだ米を50回しか作ったことがないですから」

50年も一つの道を進んでいれば、どう考えても超ベテランです。でも、その道は平坦ではなく、何度も失敗したり試行錯誤をしながらお米を作ってきたのでしょうか。それにどれほど経験を積んでも、自然相手の仕事ですから完璧ということはないのでしょうか。それが先ほどの謙虚な言葉に表されていると思います。

京都府と滋賀県にまたがる比叡山の延暦寺(天台宗総本山)には、平安時代から行われている「千日回峰行」という世界屈指の荒行があります。どれくらい厳しいかというと、安土桃山時代以降は、51名しか達成者がいないのです(それ以前の記録は織田信長の焼き打ちで史料が消失)。7年をかけて荒行を達成した行者は大阿闍梨と称され、「不動明王の化身」「生き仏」と尊敬されます。450年で51名なので平均すると10年弱に1名。オリンピックのメダリストよりも遙かに希少な存在ですから、凄さが分かります。ア

◇ 2023(令和5)年の御法事をご確認ください。

- ・2022(令和 4)年： 1周忌 •2021(令和 3)年： 3回忌
- ・2017(平成29)年： 7回忌 •2011(平成23)年： 13回忌
- ・2007(平成19)年： 17回忌 •1999(平成11)年： 25回忌
- ・1991(平成 3)年： 33回忌 •1974(昭和49)年： 50回忌

お勤めは、ご自宅でもお寺でも大丈夫です。御命日が近づいても予約の連絡の無い場合には、ハガキや寺報にてご案内いたします。念のために、境内通路脇の案内板に該当者名を掲示していますので、お墓参りの際にご確認ください。年回の御法事が無い方も、**月命日・祥月命日・お彼岸・お盆**には、お墓やお寺の阿弥陀様にお参りしましょう。階段がつらく2階本堂まで行き難い方は、1階の仏間でも御法事ができます。境内駐車場も7台までは大丈夫ですが、満車の時は近隣のコインパーキングをご利用ください。御法事に掛かる時間は、読経から法話まで約30分です。複数の御法事を続けてお勤めする場合は約15分ずつ時間が伸びます。**小さいお子さまにとても大切な御法縁**になりますから、ぜひ同席くださいますようお願いいたします。勤行中におとなしくなくても大丈夫、それも故人さんはお喜びでしょう。お寺での御法事は、ゆっくりお参りいただけるよう間隔に余裕を持たせて、開式時刻は**10時・11時半・13時・14時半**にしております。予約状況によっては時刻の変更希望も可能です。その他ご不明の点はどぞ何なりとお問い合わせください。

◇ 寺業報告

- ・2023年1月1日：【修正会】 今年最初の法要。のべ33名がお参りくださいました。法要の時間以外でも本堂を解放していましたので、多くの方がお参りくださいました。お陰さまで、住職・坊守も大病無く、子どもたち6人も健やかに育ってくれています。家族全員がお正月に揃うのもいつまでかな?なんて考えてしました。

